

がんばる農家プラン事業

～水稻＋白ねぎ、規模拡大経営発展プラン～

作成年月 平成27年 5月

平成28年 1月

作成者 嶋川 克寿

水稻＋白ねぎ、規模拡大経営発展プラン

作成者 嶋川 克寿

事業主体 嶋川 克寿

1. はじめに（プラン作成に至った経緯）

平成26年12月より認定農業者となり、日南町 地域で水稻、白ねぎ、農作業受託を中心に地域の信頼を得ながら規模を着実に伸ばし、現在は4.9haの規模となりました。

当地域でも、予想以上の高齢化、後継者不足により農業を続けていくことが困難な農家があり、徐々に小作依頼が増えつつあります。

小作を受けるにあたり、米価が下げ止まらない中で品種選定と浅起によるコスト削減や鉄コーティング直播による省力化をするなど工夫を図っていくことを考えています。

耕作拠点である当地域の耕作条件は決して良いとは言えない中でも農業をして儲けることが出来る手段があることを実証するため、今後も規模を拡大して売上高を伸ばし、地域雇用などを進めながら地域に活力がでるような経営を目指したいと考えています。

2. 経営の現状分析

(1) 経営者の経験・実績

私は兼業農家として40年間農業を経験し、3年前に退職してからは若い時からの夢でもあった農業での起業を進めるため個人経営で規模拡大を進めているところで

す。まだ始まったばかりですが平成26年には4戸の小作依頼を受け今後も規模は拡大していくと思っています。2年前からは白ねぎ生産で少しではありますが地域雇用を行うことができ、規模拡大に手応えを感じています。将来的には個人経営を前進させ法人化することも視野にいれています。

○過去の補助事業実績

なし

○認定農業者

平成26年度 日南町農業経営改善計画 認定

(2) 経営環境 (H26年度)

《経営規模》

自作地	借入地	合計
98 a	189 a	287 a

《作目》

水稻	白ねぎ	その他(そば等)	作業受託
220 a	15 a	52 a	延べ250 a

《年間作業スケジュール(農業部門)》

品目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水稻	播種・育苗			防除			刈取り					
	耕耘・代かき			田植え			運搬					
白ねぎ	耕耘・定植			追肥・防除			収穫・選別・出荷					

《施設・農業機械所有状況(平成28年1月現在)》

機械・施設名	台数	能力・年式等	導入年度	備考
トラクター	1台	30ps	H24	
田植機	1台	5条	H7	
コンバイン	1台	3条	H21	
籾摺機	1台	4インチ	H27	H27年度がんばる農家プラン事業
米選機/計量機	1台		H27	〃
動力噴霧機	1台	自走式	H25	
乾燥機(共同利用)	1台	20石	H20	
管理機	2台	6.3ps	H25	
ビニールハウス	1棟	120m ²		中古
〃	1棟	40m ²		中古
格納庫	2棟	50m ²	S63	

(3) 経営の課題・問題

① 水稲の規模拡大に伴う作業能力の不足

今後、規模拡大の計画をたてる上で、絶対的に機械能力が不足してきます。主に水稲の作業機械で、トラクター、田植機、コンバイン、籾摺機（米選機、計量機含む）、乾燥機の能力が不足することが予想され作業遅延のおそれがあります。また乾燥機は共同で利用しているため、規模拡大していくと時間的な融通が利くことも重要となってくるため、自己所有に切り替えます。目標年の水稲栽培面積に達する前にこれらの機械整備が必要となります。

同時に、省力化技術の導入やほ場の選定条件を厳しくすることを行って、少しでも効率化を図ることが必要です。

(現状)	トラクター30ps	1台の稼働能力	5.3ha
	田植機5条	"	4.8ha
	籾摺機		

※鳥取県特定高性能農業機械導入計画を参照

② 白ねぎの規模拡大に伴う労働力の不足

水稲と同様に白ねぎも規模拡大していく中で、可能な限り個選出荷をしたいと考えています。そのため、収穫時期には多くの労働力が必要となります。現在は主に1人で作業をしていますが、白ねぎは機械化で解決できる問題ではないので、労働力の確保が必要となります。

(現状)	白ねぎ収穫時期の労働力	主に1人（僅かに臨時雇用）
------	-------------	---------------

3. プラン内容

(1) 取り組み方針

①水稲の取り組み

1) 農地中間管理事業の活用等による農地集約

規模拡大において、H26年度より始まった農地中間管理事業へ受け手として応募をしており、地区を中心に農地の集約を行います。実際に、高齢化や米価下落により農業をリタイアする声がかれ、規模拡大の見込みはあります。特に当地域は担い手がおらず、周辺担い手農家（ ）などに小作を出す人もいますが、地域住民との話し合いを進めて規模拡大に繋げていきます。

ii) 機械の能力アップ

懸念される機械能力については基幹作業を行うトラクター、田植機、コンバイン等を大型化し、作業能力を向上させます。

iii) 省力化技術の導入

H27年より80aで鉄コーティング直播という技術を導入し省力化を図ります。これを導入することで育苗期間や田植作業に係る労力削減が見込めます。また、今後の規模拡大で必要となっていく育苗ハウスも増設しなくて良いためコスト削減にも繋がります。

iv) 圃場の選定条件を厳しく

今後、規模拡大をしていく上で不整形圃場な小区画圃場、水便利や飛び地など条件の悪い農地は可能な限り避けながら集約を進めていく予定です。

ただし、地域の付き合いなどにより、どうしても条件の悪い農地を借りる場合は、そのほ場に合った作物を栽培するよう工夫をしていきます。

②白ねぎの取組み

規模拡大に伴い、収穫、出荷調整で必要となる労働力は地域の高齢者等をお願いをして労働力を確保します。

(2) 目標設定 (生産・販売計画等)

(目標)

項目	現状 (H26)	1年目 (H27)	2年目 (H28)	3年目 (H29)	目標 (H30)
水稻栽培面積(a) 作業受託含む (うち受託面積)	270 a (50a)	340 a (0a)	420 a (0a)	620 a (50a)	820 a (100a)
白ねぎ栽培面積(a)	15 a	20 a	25 a	30 a	50 a

(3) 実施計画

《支援事業の内容》

取組項目	規格・台数	H27	H28	H29	H30	事業費(税込) (千円)		実施主体
							補助金	
糶摺機一式	4インチ・1台	◎				914	423	県・町・事業主
乗用田植機	6条・1台		◎			4,240	1,963	〃
乾燥機	30石・1台		◎			1,957	906	〃
トレーラー	1台			◎		786	364	〃
トラクター				◎		5,789	2,680	〃
ドライブハロー				◎		1,200	556	〃

※◎は県、町の支援が必要なもの、○は事業主が実施

※補助残部分については H27、H28 は自己資金、H29 は借入で対応

(4) 期待できる地域への効果

- ・規模拡大を進めることで、地域の農地荒廃を防ぐことができる。
- ・機械の能力アップにより、作業時間の短縮、適期作業の実施による収量、品質の向上を図る。